第 3 回　練馬区商工業振興懇談会議事概要
日時：平成 21 年 11 月 16 日（月）午後 6 時 30 分～午後 8 時 40 分
場所：練馬区役所本庁舎５階 庁議室

《議事次第》
１　開会
２　（１）報告事項：第 2 回懇談会会議録（案）について
資料１ 第 2 回練馬区商工業振興懇談会議事概要
（２）前回懇談会の質問事項　資料２ 起業者一覧
資料２　企業者一覧
３　議事
（１）練馬区のイメージと商工業振興のテーマ
資料３ 練馬区のイメージと商工業振興のテーマ
（２）テーマを実現するための具体的な取組
資料４ テーマを実現するための具体的な取組
（３）委員提案
資料５ 委員提案
４　検討委員会・懇談会の進め方（案）について
資料６ 商工業振興計画策定に向けたスケジュール（案）
５　その他

《出席者（五十音順）》
井戸勤、岩橋栄子、大島いずみ、奥津稔、黒岩健一郎、篠利雄、髙橋徳行、本田八十夫、元屋恵子、山中伸彦、横山正二

《傍聴者》
なし

１　開会

■座長

・　定刻になったので第 3 回練馬区商工業振興懇談会を始める。委員の出欠について事務局より報告願う。

■事務局

・　２名の欠席、出席者 11 名である。

２　報告事項

■事務局

― 資料１説明

― 資料２説明

座長

・　起業者について、どのように把握しているのか。起業家セミナー受講後に何か行っているのか。

■事務局

・　受講半年後にアンケートを配り、集計している。

３　議事（１）練馬区のイメージとテーマ

■商工業振興計画策定支援業者

― 資料２説明

■座長

・　他の地域の取り組みを見ると、企業と住民の交流を促進したり、地元の特産物を再活用するなど、全く新しい物を取り入れるというよりも、いまあるものをうまく活用しているようだ。いまの説明を聞いて何か意見はあるか。

■委員

・　大きな方向性としてはこれでよいと思った。21 世紀はモノの時代から心のゆとりの

時代へと変化したが、これをどう具体化するのかということが問題だと思う。提示されたイメージやテーマは、そうした考えに合っているのではないかと思う。まちづくりは100 年の計で夢やイメージを描き、その中で 10 年後の姿について考えていく必要がある。

・　練馬の場合、まちに足を踏み入れただけで「練馬はアニメのまち」と思わせるような雰囲気を醸し出すことができれば、世界中の人が練馬に目を向けるようになり、訪れてみたいと思わせるような街になるのではないだろうか。そうなれば、住民も誇りを持つことが出来る。区が一丸となって、区民、事業者が同じ方向を見て進むべきである。

■座長

・　未来から今を考え、テーマを掲げ、10 年単位でものを考えていくということだろう。区の企業がまったく新しいサービス、製品を開発できるような土壌をつくっていくということだと思う。

■委員

・　出来なくても良いので、夢を持つ必要がある。区民が同じ方向を向くということが大切である。

■委員

・　徳島県上勝町では、おばあちゃんたちが葉を集めて東京の料亭に販売し、繁盛している。個々の儲けたいという気持ちが街を活性化させた。まちづくりとは、結局、自分の為であり、自分が幸せでいれるということがテーマではないか。

・　先ほど、練馬は広く、商店街ごとに特徴を出せないかという話があったが、その通りだと思う。区の商店街を４分割くらいして、各商店街でテーマを設け競わせられないだろうか。世田谷がまさにそれをやっており、他の商店街に負けたくないということで商店街活動が活発であり、商店街ごとで特徴がある。自らの売り、儲け方法を知っていることが大切である。この区の商店街の競争が、いずれ街の活性化につながっていくのでは。

・　例えば、ねりコレもイベントで販売すれば売れるが、消費者がわざわざ販売元のある商店街に出向いて買うかというとそうではない。そうであるならば、商店街ごとに各地域のねりコレをやって競った方がよい。また他との連携という意味では、ねりコレ商品をいくつか買うと景品でアニメのレアモノグッズがもらえるなどしたらよいのでは。

・　としまえんには、週末ごとにコスプレをした沢山の若物が集まっている。彼らは、帰りにファミリーレストランを利用している。そうした若者を商店街に抱え込めないだろうか。例えば空き店舗を利用し、軽食やお茶しながら自由にプリクラを撮ったり、貼ったり出来るスペースが出来ないか。大泉地区にアニメ産業が多いということであれば、

アニメのイベントを常にやっていれば良い。例えば、アニメの展覧会等を新人や公募の住民による参加で実施出来ないか。

・　先日、石神井で伝統工芸展があり盛況だった。伝統工芸に関心のある人が多いようだ。関心のある人達を後継者候補として、区が後継者になるための講座を開くなどコーディネーターになって橋渡しできないだろうか。結局、練馬は金があるのにそれを砂の中に捨てている気がする。

■座長

・　埋蔵金ではないが、金が転がっている。見直したらかなり活かせるものがあるのかもしれない。地域ごとの競争は良いかもしれない。上勝町みたいになれるかは分からないが、練馬区の高齢者が元気になれば良い。高齢化はキーワードになるのではないか。

■委員

・　確かにそうだと思う。テーマは統一されている方がよいので、練馬区のイメージと商工業振興のテーマで目指している「わがまち」と、区内の学校の校歌の様に歌われている「わがまち練馬」と今回のイメージがずれない様にしたほうが良い。

・　アニメについては、どこの資料にも記載があるが、一般区民がどこまで理解しているのだろうか。どう活かすのかが課題である。

・　ドイツではビール祭をやっている。大きな会場に昔の礼服を着ている人がたくさんおり、子どもが来ても楽しめるようになっている。このように、いかに外から客を取り込むことができるのかを考える必要がある。

■委員

・　練馬区で有名な野菜といえば、昔は大根だが今はキャベツである。そのキャベツを使い、肉汁だけを入れた肉なしの野菜ギョウザを観光協会の協力で作った。野菜ギョウザに練馬大根を使ったおろし醤油をつけて食べるとよい。農家としても自分が作った野菜で有名な商品が出来れば、やりがいを持つことができる。課題は、開発した商品をどのようにして流通させるかである。

・　練馬は、ビール麦の発祥地でもある。明治時代にビールが入ってきて、日本でも風土に合う麦の栽培を試みたところ誕生したのが金子ゴールデンである。いま、その麦を復活させようとしている。

■座長

・　練馬の特産品としてすでにあるということか。

■委員

・　金子ゴールデンというビール麦は、ここ 40 年は蒔かれていない。

■委員

・　いまの話には、ストーリー性がある。街の活性化のためには、区民が理解し、一丸となって行動していくことが大切である。そのためにはストーリーが必要である。夢を掲げ、それを実現させていくために、いまあるものを活かしていく。

・　日本は、国際化と情報化に遅れている。その点を意識して取り組みをおこなっていけば、練馬区で素晴らしいものができるのではないだろうか。新しい創造力にかかっている。専門家が加わったチームで取り組んでいけばよい。

■座長

・　夢を持つことは大事であるが、それを実現するためにゼロから作り上げるのは難しい。しかし練馬ではゼロから作らなくても資源がある。例えば、ギョウザも、味の決め手となるキャベツが練馬にはある。

■委員

・　金子ゴールデン復活のきっかけ、発想のベースは何であるか。

■委員

・　先輩の功績への畏敬の念で試みた事業であったが、評判が良かったので商品化を進めることになった。

■委員

・　100 年先というが、10 年先も見えない時代と言われている。練馬はファミリー世帯が居住しているのが特徴である。しかし、かつてのニュータウンは、ファミリー世帯を取り込んで、そのまま高齢化が進み、いまや空洞化している。そうした街にならないようにする必要がある。

■委員

・　企業はみな長期計画を持ち、「時代は変化する」「社会は変化する」ということを意識している。適応出来なかった企業は滅びている。長期計画があるから、時代の変化に対応できるのである。

■委員

・　企業の場合は焦点が定まりやすい部分があるが、地域の場合、そういった発想が使えるのだろうか。練馬から消費が流出しているということだが、これをどのように考えるか。収益を重視するなら、材料→製品→流通→ＰＲ→販売という流れを誰がコーディネ

ートしていくのかという課題がある。資料の説明にあったように、地域産業については、行政が橋渡しをするということが考えられる。100 年のビジョンの為には受け継がれていく仕組みづくりも必要である。

■委員

・　長いスパンで決めないといけない部分はあると思う。アニメなどの細かいものを入れるのは難しい。各当事者達がアイディア次第で 10 年先であっても活性化につなげることができる仕組みについては考えることができるだろう。

・　いまの時点でも課題が出てきており、例えば消費者のライフスタイルに対応できていないのは何故かという点について分析していくと、見えていくものがあるのではないだろうか。資金不足なのか、アイディアがないのか、それを実施するための人材不足なのか、情報がないのかなど原因が判明すると具体的なところに踏み込める。そうした問題分析と解決のための仕組みづくりを検討することが必要で、それができれば 100 年越しで理想とするところに近づけるのではないだろうか。

■座長

・　時代が変化する中で、問題を見つける仕組み、問題に解決できるしくみを提言の中に組み込むことが出来れば、様々なことに対応できるのではないだろうか。実施する内容だけでなく、仕組みも盛り込むことが大切である。

■委員

・　現在、商店街は 112 あり、4,000 人が従事している。30 年前には多くの店が午後 10～11 時まで開いていた。しかし現在では年末には多くの店舗が閉まっている状態である。商店街に若者がいなくなり、店そのものが高齢化した。商店街は、安心して、楽しんで買い物ができる場所であると思う。例えば、千歳烏山商店街では、駅前に花を植えるなど町をキレイにする活動にも客が参加している。参加した客には商店街のポイントを付与するなどの工夫も見られる。しかし、客はイベントに参加するが、結局、帰りに買い物をするのはスーパーである。

・　練馬でもかつては北町などの商店街が大変なにぎわいであった。現在でも祭りなどをやれば人は集まる。魅力があれば人は集まるということなので、あとはやり方次第である。それを誰が仕掛けるのか。

・　10 年、20 年先ではなく、今の商店街をどうすれば良いかというテーマが大きい。一方で先を読む必要もある。実際に商店街で扱われている商品も時代とともに変わってきている。情報を提供してもらいながら、商店街を存続させる方策を考えていきたい。

■座長

・　練馬区の商工業の活性化を考える際、商店街はなくてはならない話である。

■委員

・　商売の問題が議論されたが、一番よいのは、練馬区に人を呼び込み、住んでもらうことではないだろうか。安心して住めること、教育施設や子育てなどの施設が充実しているということが大事ではないだろうか。ただ商売の方法を提言するだけではだめではないだろうか。

■座長

・　生活に関わるインフラ整備、ハードだけでなくソフトの面にも目を向けていきたい。

３　議事（２）テーマを実現するための具体的な取組

■商工業振興計画策定支援業者

― 資料４説明

■座長

・　練馬区でもうまく活用できそうなアイディアや仕組みがあったと思う。

■委員

・　具体的な取組がある中で、練馬に応用できるというものもあったと思う。これらを一つ一つバラバラに取り組むのではなく、ストーリー性を持たせ、まとめていく必要がある。例えば、川越は、まちづくりの成功事例で取り上げられる事が多い。年間 400 万人（イベント時に 100 万人、週末には 300 万人）が訪れるといわれている。しかし、東京近郊にあることから宿泊する必要がないため、お金はあまり落ちていない。蔵の街で有名であるが、商店街で売られているものはそうした蔵の街のイメージと連動していない。蔵という建築物と商工業が結びついていない。また、人の流れも駅前と観光スポットで繋がっていない。そのため、統一的なテーマが打ち出せていない。具体的なイメージをもとに個々の資産、取り組みを結びつけるような一つの枠組みが必要である。

■委員

・　川越の商店街出身の国会議員がいると聞いたことがある。国からお金をもらっているのか。

■委員

・　都市再生のモデル事業ということで、「川越蔵の会」というＮＰＯ法人が主体となって予算をとっている。

■委員

・　巣鴨の場合もお地蔵さんには人が集まっているが、商店街にはあまり人が流れていないようだ。川越と同じ状況かと思う。

■委員

・　中村橋、北町の祭りも一過性であり、他のものにどのように結びつけていくかが課題である。

・　後継者、労働生産性の向上がなければ産業は栄えていかない。練馬は、農業とアニメが大きな使命感を持って一つの目標を達成できれば商工業は自然によくなってくるのではないだろうか。商店街も更新する覚悟をしなければならない。農業とアニメを積極的に支援していくことがよいのではないか。例えば、区内の大学とアニメなどの芸術関係の分野が連携するなど。また廃校になった校舎をアニメ関係の何かに活用出来ないだろうか。農業、アニメなど、シリコンバレーのように、練馬であればビジネスがしやすいということになれば、人を呼び込めるようになるのでは。

■座長

・　面的にも時間的にも、うまく繋げていくことが大事なのではないか。商工業からアニメ・農業を考えることが必要である。

■委員

・　工場は、環境、水、音の問題などで、区内から追われている。ものを創ることは大切なことである。工業の問題をいま一度考えてもらいたい。アイディアはあるが場所がない、資金がないという問題があるので、事例で紹介があったような工場アパートのような設備を作り、誘致する必要があるのではないか。また、区内には工業高校もあるので産学連携もありえる。ものづくりだけでなく、人づくりが大事なのではないか。新しいものに挑戦できるような環境作りが必要ではないか。それが将来に繋がる。

■委員

・　今までの話はモノを売る立場からの議論であるが、消費者の立場からすると時間的、価格的な制約がある。練馬のキャベツギョウザの話には興味を抱いた。例えば、自分が消費者の立場で、どのようであれば買いたいのか考えると、通販だと買いやすいと思う。そうした消費者の立場からみた議論ができないだろうか。

■座長

・　企業に利益が出て栄えることも大切だが、それによって区民の生活が豊かにならない

と両輪にならないので、そうした点も考える必要がある。

■委員

・　キャベツギョウザ、ビール、アニメを組み合わせれば、何かが出来るのではないか。老人ホームが多くなっているが、高齢者にやさしい商店街が出来ないだろうか。高齢者向けの施設を近くに取り込めないだろうか。また、共働きに必要な子育て支援施設も商店街に取り込めればよいのではないか。

・　大型店舗と商店街がうまく共存できている事例はないのか。大型店の参入を食い止めることは出来ないのか。

■事務局

・　大規模小売店舗立地法により大型店の参入を食い止めることはできない。

■事務局

・　商店街における大型店との共存は十分に可能であると考える。しかし業態は限られると思われる。例えばクリーニングなど、スーパーが出来ないものを地元の商店街でフォローしていることもある。スーパーが集客につながっている一面もあり、撤退した後に商店街が衰退することがある。共存は重要な課題である。

■委員

・　吉祥寺が理想的である。デパートがまちの外側にあったので内側と周辺が活性化していった。しかしデパートは厳しい状況でいまや伊勢丹は撤退する。一緒になって町全体がやらなければ地域間競争に勝つことは出来ない。

（3）委員提案

■事務局

―資料５について説明

４　検討委員会・懇談会の進め方（案）について

■事務局

―資料６について説明

■座長

・　次回、提言書の骨子については事務局と検討したものを示して、アンケート結果を含めて議論をする。２月、３月はまとめになる。

■座長

・　第３回懇談会を終了する。